

平成29年度 第2回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 南古谷地区 ～



日時：平成30年2月16日（金）

午後7時～8時30分

場所：東部地域ふれあいセンター 会議室

参加者

南古谷地区 26名

出席者

市長、栗原副市長、板東副市長、危機管理監、総合政策部長、市民部長、
こども未来部長、都市計画部長、建設部長、学校教育部長、
福祉部参事（福祉部長代理）

意見数

分類	件数	内容	頁
子ども・子育て	2	・子どもが集える場所 ・牛子小学校に関する要望	8 19
福祉・保健・医療	1	・地域の生活支援体制	7
教育・文化・スポーツ	1	・第三次川越市生涯スポーツ振興計画	15
都市基盤・生活基盤	7	・JR川越線と都市計画 ・災害時の避難経路① ・ハザードマップの見直し ・災害時の避難経路② ・南古谷駅前公衆トイレの設置 ・駅の乗降所とシャトルバス停留所 ・災害時の車での避難	3 5 10 15 18 19 21
地域社会・市民生活	2	・青色防犯パトロールの維持管理補助 ・運転免許返納	9 20
住民自治・行財政運営	5	・地域会議の方向性 ・南古谷市民センターの建て替え① ・南古谷市民センターの建て替え② ・地域会議の活動の広報掲載 ・地域会議と子育て支援	2 5 7 16 16
計	18		

意見交換（要約）

《地域会議の方向性》

意見 今日、市長さんを初め、市の幹部職員の皆様方とこういった形でお話をできる機会をつくっていただいて本当にありがとうございます。

地域会議対象ということですので、地域会議そのものについて、私も第三次後期総合計画、第四次総合計画の委員としても参加をさせていただきながら、地域内分権ということによってまいりました。南古谷地域会議をつくって丸4年を迎えようとしています、私の想像したような形と、今、地域会議が全然違う方向に行っているのかなと思っています。資料の中にも、課題のところにあるんですが、地域の負担を軽減すると明記されているんです。にもかかわらず、ここにいる全員はほかの役と兼務でやっております負担感が増すだけなんですね。ぜひ、その辺のところを行政はどのようなふうを考えているのか、まず、お聞かせ願いたいと思います。私は、地域と行政が協働をしながらというふうな形で捉えていっているんですが、その辺の考え方もお聞きしたい。でないと負担感が増すばかりで何の進展もないんですね。

ですが、やっと私も試行錯誤でやってきた4年目にして、部会ごとの会議を開きながらすごくいい意見が出てまいりました。といいますのも、この地域会議の性質上、我々地域の間、それから行政関係の人たちにも委員として入っていただいています。それから病院でありますとかデイサービス施設ですとか、特養の代表の方にも入っていただいて、さまざまな分野からこの地域会議でいろいろ意見交換を行ってきました。そうした中で、今までの地区社協の中での話よりも幅広くいろいろな意見が出てまいりまして、それを実行するにはどうしたらいいかなということが、まずあります。

ただ、担当部署の方には全体の会議のときには来ていただいています、やはり助言ですとか行政はこういうふうにあるということ、むしろ具体的にこちらのほうがお聞きしたいということ、私は切に願っています。

それと、2年前だったと思うんですが、地域会議の会長会議を開きました。そのときに、川鶴地区と私も南古谷地区の事例を発表させていただきました。しかしながら、その後、全くそういう集まりもありません。ですので、ある地区の会長が

自主的にやろうという話も今持ち上がってきているんですが、果たしてそれでいいのかどうかということをお聞きしたいというふうに思います。

他市も自治会連合会がありますが、コミュニティ協議会という形でやっている地区もありますので、ぜひそういう組織立てを行政のほうでやっていただけるとありがたいなというふうに思います。

市長 今、地域会議についての疑問点等々出されたわけですけれども、ざっくり言って地域会議は地域の課題を地域の人たちが知恵を出し合って解決していく、そういう場と私は捉えております。もちろん、その解決プロセスの中に行政が必要であれば、出てくれというふうに言われればもちろん出てまいりますし、そういうような形で進めていっていただけたらというふうに思います。

実際に、何かいろんなことをやるに当たってお金が必要であるということであれば、予算も一定程度おつけるとかそういうようなことも考えていますが、いかんせん、こちらも新しい仕組みなわけでなかなか試行錯誤的なところがございまして、大変ご迷惑をおかけして申しわけないのですが、ぜひ、どんどんと、例えば、先ほど出てきたそれぞれの会長会議のようなものも必要と思われたら自分たちでやっちゃおうというような、そこに行政出てこいというような形で進めていただけると、とてもありがたいなと思っております。

意見 ありがとうございます。地域会議は行政主導で始まったものですから、できれば会長連絡会的なものも、ある程度お膳立てしてくれたほうがいいのかというふうに思っています。ひとり歩きしてしまいますとやっぱりいろんな情報等も変な形で流れたりしますので、ぜひ、その辺のところは考えていただきたいと思います。

《JR川越線と都市計画》

意見 南古谷駅の橋上駅化と北口改札につきましては、具体的に動き出してきているという情報を受けております。本当にありがとうございます。

それから、荒川の堤防の件については、市長さんと一緒に行っていただきながら国交大臣のほうに要望書をお渡しいたしました。荒川の堤防のかさ上げは、今の川越線の鉄橋を高くしないと実際にはできないということ。現実には鉄橋のルートが今低くなっておりますので、それを改修しないとだめだと。これは、やはり川越線、埼京線の一部ではありますが、日進以前のところが単線であります。なので、JRの

ほうにも要望に行きましたが、東上線に観光客を全部とられていると。複線化をして本数をふやしていただいて、観光客も川越線を利用するような形でやってほしいというふうなことを申し上げましたが、それに対する明確な返答はありませんでしたが、その複線化について、鉄橋を新しくつくるのであれば、ぜひ複線化の方向でお願いしたいと思います。

それから、駅に広場ができて都市計画が変更になり、それが承認されたようなことをお聞きしておりますが、ぜひ優良な形の、いわゆる川越市に税金が落ちるような都市計画を私は期待をしています。それについては、多分、具体的には今はなかなか難しいのかなというふうに思いますが、南では地域区画を見直すぞということで私は認識しております。それから、地域会議の委員のみんなの前では、南古谷地区が一大転換できる絶好のチャンスなんだよって言っているんです。ぜひ、その辺のところも行政として答えていただけるとありがたいなと思っています。

市長 荒川堤防のかさ上げについては、比較的最近、一定の時期までにはそれができそうだという方向で国が動き始めているというような情報をいただいて、先日、代議士等に協力をいただきまして、国交省のほうに、国の計画がおありのようだからそれに沿って早目にやってくださいとお願いに行ってきたところです。

今までだと、いつまでにやるとかいつごろまでにめどがつきそうとか、そういう応答はなかったんですが、今年になってから、このくらいまでには何とかかなりそうだという情報が入ってきまして、その点ではとても明るい展望が開けてきたと考えています。

あと、都市計画の関係ですけれども、南古谷駅は北の方向に100メートルぐらい行くとすぐ調整区域になってしまうという、その現状を、こちらとしても何とかしたいなというふうに考えております。しかしながら、これは市が単独でできることではなくて、県・国等にもいろいろ働きかけをしなければいけない部分が多々ありますので、これから鋭意やっていきたいと思っています。

意見 複線化の件はいかがなものでしょうか。

市長 複線化については、今のところ正直言ってわかりません。ただ言えることは、駅の乗降客がふえれば、そういう方向での検討も具体化してくると思いますが、今と変わらないとか、あるいは減少傾向になってしまうとかそういうことであると、鉄橋のかけかえはするけれども、複線化はなかなか難しいということになりそうな

気がします。ただ、こちらとしては、どうせかけかえるのであればお客が減ろうが減るまいが、複線を前提にした鉄橋をかけてくださいというようなお願いは、ぜひ、していきたいと考えています。

意見 ぜひ、前向きな姿勢でお願いをいたします。

《南古谷市民センターの建て替え①》

意見 南古谷市民センターも古くなりまして、その建て替えの問題です。まことにこの施設が、こういってはあれですが、中途半端です。このままこれを継続してやっていくのか、市民センターの一部としてやっていくのか、その辺の方向性があるのであればお聞きをしたいなと思っています。

あとで要望等も出てまいります、児童館が必要であるとか児童公園が必要であるとかいろんな意見が今すごくたくさんありまして、将来的にこれをどうするのかということ、まず、お聞きしたいと思います。

市長 市民センターについては、時期はともかくとして、いずれ改修といいますか建て替えをせざるを得ないという課題はありますので、それに向けて、このふれあいセンターを生かすのか全く別個に考えていくのかそれも含めて、地域の皆様方とこれから意見交換を進めていきたいと思っております。

意見 よろしくお聞きをいたします。

《災害時の避難経路①》

意見 先の台風で寺尾地区が水害に遭ったということで、それについては、私は何も申し上げる立場にはございません。ですが、そのときに同じように新河岸の土手川についても危険であるということで避難所が開設されました。そのとき、牛子小学校は体育館が2階にありますので外階段を利用して上がっていきます。ですが、そういうところに避難してくる人はいわゆる災害弱者でありまして、台風の突風でも来たら飛ばされるような状況であります。

ですが、五、六年前になると思うんですが、九十川の避難指示が出ました。私もそのとき自治会長としていろいろやったんですが、起きたものはしょうがないということで、それならどういふふうには起きないように、起きた場合にはこうしようという検証をしようということで、当時の防災危機管理課の担当者といろいろやりま

した。やっぱり2階にある体育館の外階段で上がるというのは大変危険であるということで、校舎の中からその体育館に行けるように高さをとるという方向性になりました。

それから、夜間の避難経路の問題も防災危機管理課の担当者と各自治会長を全員回して、防犯灯のついている道を夜間の避難経路ということで決定をして、南古谷の住民はそれが大体理解できていたのかなと思います。

ですが、寺尾の水害に遭ったときに、そういったことも引き継ぎされているのかされていないのかわからないですが、外階段で牛子小の体育館に上げたということで、私はそういう対応についてちょっと疑念を持っています。本当に、これ生命も関係するような状況ですので、ぜひそういうところは、やっぱり災害というのは積み重ねをやっていって、それが起きないようにしていくのがひとつの方策でもあります。特に水害の場合はそうなんですよね。それから台風の関連もそうです。その辺をお聞きしたいと思います。

市長 いろんな経験を積み重ねてよりよい災害対応ができるようにしていかなければならないというところは、おっしゃるとおりであると思っております。ただ、今回の寺尾に対する対応等については、なかなか今までの経験というか教訓が生きていなかった、生かせなかった、そういう部分がありまして、それについては、今、新しいしっかりとした対応をつくろうということで進めているところですが、南古谷の場合も、まだまだいろんな避難の方法であるとか避難情報の伝達方法であるとか、改善しなければならない部分は多いと思っております。

できるだけ早く、避難準備情報とか避難指示を出すという方針でいくわけですが、どうしても台風などの場合は状況で、急に向きが変わるとかそういうこともないとは言えない。そういう場合に、夜中に指示を出すのはどうなのかというようなこととか、指示を出すにしても防災行政無線では雨風が強いときにはほとんど伝わらないという課題もございますので、そういう点をどうやってクリアしていくのかというものを、今、会議の中で考えていくつもりでございます。

意見 ありがとうございます。本当に、牛子小の場合、2階に体育館があるものですから、ぜひ、その点はきちんと引き継いでいただきながら配慮をお願いしたいと思います。

《南古谷市民センターの建て替え②》

意見 先ほどと重複してしまうんですけども、南古谷市民センターは、5番目ぐらいに古いというお話は聞いておりますけれども、雨漏り等々いろいろありまして、そして、いろいろな部分というのも補修はさせていただいておりますけれども、なかなか使いにくい部分も多々出てきておりますので、早い時期に改築のほうをお願いできればと思います。

そして、南古谷市民センターの駐車場で、以前、水槽があったところがゼブラゾーンになってしまって、駐車場の台数がかなり減ってしまったため、いろんな事業をやるたびに南古谷の農協さんの駐車場をお借りして一般の方がとめているような状況です。何回か農協さんのほうからお叱り等をいただいている部分があるということで、何か方策があれば検討していただければと思っております。皆さん、あちらの駐車場には置いちゃいけないとかいろいろお話を聞いていますので、大分不自由をしているということをお話させていただきたいと思っております。

市長 市民センターの早期の建て替えにつきましては、ご要望として十分検討をさせていただきます。

それと、現状で駐車場が少ないとかそういう問題については、場合によっては市のほうでJAさんの駐車場の一部をお金払ってお借りしてしまうような対応の仕方もあり得ると思っておりますので、ご要望というかそういうような形で出していただければ対応はできると思っております。

意見 現実問題としまして、農協さんの前にちょっと空き地があるので、そういう部分がもしかしたらどうにかならないのかなという、地元でもそういうお話がありますので、ぜひよろしくお願いいいたします。

市長 わかりました。

《地域の生活支援体制》

意見 南古谷地区の民生委員児童委員をやっております。川越のほかの地域において、高齢者とか生活弱者に対して生活支援体制のことに社会福祉協議会さんの力をかりまして支援が始まると聞いているのですが、行政のほうとしてはどのような協力をしていらっしゃるのか。もしくは考えていらっしゃるのでしょうか。そしてまた、私たちこの地域においても、まだ進んでいないんですけども、もし私たちの

地域で具体化することがありましたら同じような協力をお願いすることができるかと考えてよろしいのでしょうか。

福祉部参事 ただ今の生活支援体制とは、いわゆる介護保険制度が始まった改正の中で生活支援体制整備、地域での支え合いですとかその辺のお話ということではよろしいですか。

意見 はい、そうです。

福祉部参事 生活支援体制整備事業につきましては、地域包括ケア推進課で所管しております。社会福祉協議会でコーディネーターを担当して行っております。現在、南古谷地区ではコーディネーターから、地域会議の福祉部会などで、体制の話を説明させていただいており、生活支援サービスについて検討中であるということを知っております。

現在、各地区で、まず事業の概要についての説明をいろんな会議でさせていただいて、ご理解いただくというふうな形で進めております。

地区によっては、サロンとか体操、ちょっとしたボランティアで支え合うということでもちょいボラとか言われているんですけども、そういった仕組みをつくらうとしているところがあります。同様の仕組みを各地区に、南古谷さんでもつくっていただくような形で考えておまして、それには支える側、動いていただく方が必要ですので、研修等について来年度以降もまた進めようというふうに考えております。そこには行政のほうも入らせていただいて、また年度が変わりますといろいろな会議がありますので、そういうところに顔を出させていただいて、またご説明等をお願いに伺いたいと思っております。

意見 わかりました。ありがとうございます。

福祉部参事 地域づくりでございますので、地域の方々にやっていただくなかで行政としてできる部分を支援させていただくというような形でお願いします。

意見 ありがとうございます。

《子どもが集える場所》

意見 子どもたちの集う場所についてですが、私はマンションのほうに住んでおまして、非常に子どもたちがたくさんいる地域なんですね。ですけども、その子どもたちが大人に叱られないで遊ぶ場所がない。それとあとゲームやなんかでも

集って遊ぶ場所がないんですね。ですので、子どもたちの集う場所について具体的に形あるものにして計画をしていただきたいと非常に強く思っている次第です。

遊ぶ場所はもちろんなんですけれども、仲間たちと集う場所、そして今は1人でおうちにいる子どもたちがやっぱり多い時代になってきていると思うんですね。そういう子どもたちが安心して時間を過ごすところがあることが大事なんじゃないかなと思ひまして、そういった場所をつくる必要がある状況というのはたくさんほかにもあると思うんですね。まず、児童館のようなところなど実現できればなと思っております。こういうものを形にして子どもたちにつくってあげることは大人の責任のような気もしているので、そこのところをどういうふうにお考えになっていらっしゃるんでしょうか。よろしくお願ひいたします。

市長 確かに、子どもたちが安心して集えるような場所についてのご要望は大変多いのですが、児童館の数をふやすというのは正直言ってなかなか難しい面がございます。例えば、屋内であれば市民センターやふれあいセンターの一部を、子どもたちが自由に遊びに使えたり、勉強をするのでも構わないというような使い方ができないか。私が聞いたところでは、霞ヶ関のほうでは霞ヶ関南病院は病院の中に子どもたちが自由に入ってきてそこで勉強をしたり、高齢者施設で高齢者の人と触れ合ったり、そういうようなことをやっているという話を聞きました。

ですから、いろんな場所を限定しないで、もし開放してもらえるのであれば、病院や高齢者施設等のホールのようなところで遊ぶというか、集まっているいろんなことをやったり、大人と触れ合ったりできる、そういう仕組みができたらいいなと考えています。確かに子ども専用の児童館みたいなものができれば一番いいのですけれども、正直言ってそうもいかない面がございます、今そんなことを考えているところです。

意見 ありがとうございます。でも、やっぱり子ども専用のところが必要だと思うので、計画の中には入れておいていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

《青色防犯パトロールの維持管理補助》

意見 南古谷地域会議で防災防犯部会にいる者です。今日は、青パトについて少しお話を聞いていただければと思ひます。

南古谷では、よく言われる安心・安全。この安全・安心は防犯イコール防災であると言われております。そのために、見守り、防犯活動の一環として青パトを運用しているわけですが、この青パトは地域で購入し地域で維持管理をして、地域で運行表を作成し地域の方が自分たちの安全を守るために運用をしています。この青パトは、平成24年8月に運用を開始しております。

この青パトを運転するには、講習会が必要になります。この第1回の講習会が平成24年1月に行われまして、昨年の6月までに1,478名が講習を受けています。これは決して上の人からの強制ではなくて南古谷地区の住民の方々の意識の高さというか、自分たちのまちを守ろうという思いがあるのかなと思っています。

先ほど言いました、この青パトの維持管理につきましては、南古谷地区で行っておりますチャリティーゴルフの皆様からのチャリティー金で燃料代、車の保険代、それから車検費用等を賄っています。ただし、その中で年間約3万円ほど川越防犯協会さんから返上していただいております。

今はチャリティー基金の中から維持管理ができますが、今後、このチャリティー基金の使い道に、違う方向で使いたいとかそういったことが出てくるかもしれません。そうしたときに、青パトは水では動きませんので、今後、こういった活動を継続していくために資金面等々を含めたバックアップ、地域と行政とのかかわり方というんですかね、あり方というか、そういった方向性をご指導いただければありがたいかなと思います。

市長 今、青パトの補助金を出している川越防犯協会は、市や警察なんかが一緒になってつくっている組織なんですけれども、そういうところからもうちちょっと補助金が出せるかどうか努力してみます。

意見 よろしくお願ひします。ありがとうございました。

《ハザードマップの見直し》

意見 地域会議の幹事と宮本自治会の会長をしている者です。

今朝の朝刊で、先ほどから話に出ていましたけれども、水害関係で台風21号による浸水被害を受けて、市として水害ハザードマップを作成して市内全戸配布するということが書いてあったんですけれども、1つとして時期がいつごろになるのかということ。

それから、今までに出ている洪水ハザードマップを持ってきたんですけれども、その中で示されている浸水想定区域がちょっと違うんじゃないかなというのは前々からあって、一度河川課さんのほうに話したことがあるんですけれども、これも直っていないと思うんですよね。

それは、地域的にちょっと細かいんですけれども、川越東高校の近辺、前とか萱沼公民館の東側地域、治水橋寄りのほうは、このハザードマップでいくと浸水想定が5メートル以上って色にしてあるんですけれども、あそこは高い地区なんですよね。下久下戸、宮本自治会地区よりも1メートルは高いと思うんですよ。ところが市のハザードマップでは、逆になっていて、下久下戸、宮本地区よりも1メートルぐらい低く表示されている。平成22年3月発行になっているんですけれども、その前もそうですし、これも直っていないと思うんですよね。

そういったことで、今度つくとすれば、もうちょっとよく高さをはかっていたきたい。宮本地区、萱沼地区、下久下戸地区のほうも早くから拡幅していただいて便利な道路になっていますけれども、図面に計画高としてはっきり載っていませんから、それを見れば歴然とすると思うんですけれども、この辺は反映されていないのかなと。横のつながりが、そういった情報が出ていないのかなという感じがしました。その辺が2点目で、浸水区域の想定が違うんじゃないかなと。

それから、この洪水ハザードマップ、荒川と入間川が氾濫したときって、漠然と避難方向の目安として宮本地区自治会の場合はふじみ野市方面に矢印がしてあるんですけれども、これってふじみ野市との協定ができているのかなという。実際に避難していった場合にどこの避難場所に行くか。最近、特に、寺尾地区も今回そうでしたけれども、茨城県もそうでしたし、集中豪雨が多いんですよね。そういった関係からまるっきり起きないという前提にはならないと思うので、実際にふじみ野市に避難していく場合にどこに避難するのか、ふじみ野市と川越市がちゃんと協定を結んであるのかどうか、その辺をお伺いしたいなと。

私どもの自治会でも防災訓練を毎年実施しているんですけれども、先ほど言った防災ハザードマップができているのであれば、そのときに地域の住民に自治会会議で配りたいし、避難場所もはっきりできればね、ふじみ野市とこういう協定が川越市とできていますよと。ですから、宮本地区自治会の場合はふじみ野市のどこに避難をするので、そういった支援も川越市とふじみ野市で協定が結んでありますよと

か。

経路もそうなんですけれども、先ほど防犯灯がという話がありましたけれども、はっきり言って、今、宮本地区からふじみ野市に逃げようとした場合は、一番近い距離は水没しちゃっていると思います。浸水が想定される時間帯となったらもう水没しちゃっていますから、そこは通れないんですね。ですから、違う経路を通らないとはっきり言って避難できません。

だから、そういった形もありますので、今お伺いした3点、防災水害ハザードマップをつくるということについてその時期と、浸水想定区域が違うんじゃないかという点と、さっきの協定ができていいのかという点。その3点お願いしたいんですが、よろしくお願いたします。

建設部長 洪水ハザードマップにつきましては、荒川側が氾濫した場合にどうなるかというのをシミュレーションしたものでございます。もう一つ、川越市では内水ハザードマップというのがありまして、これは河川が氾濫しているというよりも、大雨が降ったときに排水しきれなかったときにどこにどういう水が出るかというのを想定したものでございます。

どちらも、おっしゃるとおり地形をベースに発生した水害を想定して書いているものでございますが、十分な地形だとか正しいデータが反映していないとすれば、それはここで見直したいと思います。

それと、今お配りしているものは平成22年作成ですが、今、国交省のほうで新しい想定が出ておりますので、それを反映したものをここでつくりたいと考えております。まだこれから予算をとって調整していくことですので、すぐさまというわけにもいかないと思いますが、今、おっしゃっていたことも踏まえて検討して、早目に対応したいと思っています。

危機管理監 洪水時の避難の件ですけれども、先ほどのふじみ野市との協定につきましては県内の市町村ではどこの市町村とも、こういう災害時には協力するという協定が県レベルで、県内全体でしております。先ほどの洪水ハザードマップでは避難の方角だけが記されているということでありまして、確かにこちらの地区はこの施設に、こちらの地区はこの施設にということ定めているものではございませんでして、川越市のこの浸水が想定される地区については、そこよりも高いところに避難をしていただくということになっております。

先ほど、水が出たら避難できないルートがあるというお話だったと思いますが、避難は、水が出てから避難ではなくて、その前から段階的に避難準備情報であるとか避難勧告であるとか避難指示とございまして、それは、本当に洪水が、決壊とかで洪水してはいけないんですけれども、未然にそういう情報を流して、その段階で避難をしていただくということになっておりますので、もし万が一水が出てからの場合には、それこそ遠回りにはなるかと思っておりますけれども、大きな道路、それから高い橋のところを頑張って避難をしていただくというふうにするところでございます。**意見** 今、危機管理監からそういう話がありましたけれども、今回の寺尾地区の水害もいい例で、準備情報出ていませんでしたね。

私どものほうも、ふじみ野に行く途中の避難経路が今回も水没しています。実際に通れません。ですから、今回の水で何も被害が出ていないところでもそういう状況になっているんですよ、その経路の途中はですね。

ですから、ある程度大まかな自治会ごとの避難経路ぐらいは想定していただいて、こういう方面で回っていただくようなことまで対応してもらったほうがいいんじゃないかなと。高さを明示していただくとかね。主な県道の高さを防災ハザードマップに表示していただいて、この県道を通っていけばある程度想定される水位、まだ水没しないで行かれるとあって目安がほしいんです。素人ですとわかりませんので、実際にどのくらいの高さなのか。

国道254バイパスが標高何メートルぐらいなのか、川越新座線と言いますから駅から富士見のほうに向かう県道の高さの地域別で、下久下戸地区辺のところはこのくらいの高さが、交差点、信号のところはこのくらいの標高ですよ、宮本地区のところのそば屋さんのあの辺の十字路は標高どのくらいですよって。それが、今私が考えているのは、うちの宮本自治会の場合は新座線を下って東大久保のほうに1回ふじみ野市に入って渋井地区のほうの県道大宮上福岡所沢線のほうに回って行って上福岡のほうに行くしかないかなと。逆に東側を渡って行っちゃいますと上福岡、ふじみ野市のほうは水没していると思うんですよ。だから行かれないと思うんですね。

だから、養老橋って言いますけれども、向こうに歩いていかれるかなって。古市場地区を頑張って逃げていくような。迂回するんですけれども、そうじゃないと行かれないと思うんですよ。下久下戸地区は逆に宮本を、前山公民館というんですけ

れども、下久下戸自治会の会館から城北埼玉高校へ真っすぐ行こうと思ったら、あれはすぐ水没しちゃいます。避難準備なんて、市のほうとしては考えていないうちに水没しちゃいますのでそこは通れないと思いますよ。ですから、今泉のほうも宮本地区と同じように東大久保に向かって行って県道に行かないと行かれないかと思えますよね。

その辺はまだ全然わかっていないかなと思うんですけれども、地元の人しかわからないというような状況で、まして今、南古谷全体ですけれども、新興住宅の人が圧倒的にふえていますので7割近く、六十何%は新しい、地域外から来た人が住んでいますのでまるきりわからないと思うんですよね。ですから、自治会としてそういったものができればそういったものを想定していただいて、大まかな避難経路、水没しない地域、水没する地域、その辺もよく検討していただいて、つくっていただければと思います。

市長 ただいまご指摘がありましたように、ちょっとした雨が降った場合にどこの場所がどの程度冠水してしまうのかというような地元の人が一番よく知っていることで、地元の人でなければわからないという面がございますので、避難経路等の検討については、やり方としては行政が一方的に決めるのではなくて、それぞれその地域の人々の経験と意見を聞きながら避難経路を決めていくというような、そういう作業はやりたいと思います。

それと、もう一つ、古谷、南古谷地域は広い田んぼがありますよね。避難の距離もすごく長いところがございますので、そういうところについては、その地域にどこか土盛りをしたような場所を設けて、ある意味では田んぼをつぶしてでも土盛りをしたような場所を設けて、そこに避難をしてもらうとか、そういうようなこともひとつの方法ではないかと思えます。

実は今度、荒川の河川敷の中に調整池をつくるという計画があります。調整池をつくる以上は河川敷を一定程度掘って土ができるだろうと。多分、その土は堤防のほうに回すのかもしれませんが、その土を少しこちらにも持ってきてもらい、一定の区域ごとにそういう土盛りをしたような場所を設けるというのもひとつの、避難距離を縮めるという意味ではいいのではないかと考えています。

意見 はい、わかりました。ありがとうございました。

《災害時の避難経路について②》

川越ハイツ自治会長をしております。川越ハイツは九十川がありまして、そこに九十橋というのがございます。先ほど荒川陸橋の堤防が低いという話がありました。実際、規模は全然違うんですが、九十川にかかっている新橋が堤防より低いんです。ということは、やはり洪水の危険性が非常に高いということで6年前から申請をしております。ですが、全然ロードマップが見られないということで、ぜひロードマップを提示していただきたい。

もうひとつ、先ほど牛子小学校の体育館の話がありました。体育館に我々が避難する場合は東門を通ります。ところが、大雨の場合は牛子小学校の敷地から東門に対してものすごい流量で川のようになっています。非常時に体育館に避難できない。小学校に行った雨水は小学校内で処理するはずですが、全て東門から出てきて川越ハイツ側に流れ込んでいます。それをぜひ改善していただきたい。

市長 九十川の堤防より低い橋があるという点と、避難場所になっている牛子小学校の牛子小に入る経路の東門付近が冠水しやすい、そちら側からは入れないという点への対応については、ご要望として承っておきます。

《第三次川越市生涯スポーツ振興計画》

意見 川越市では第二次川越市生涯スポーツ振興計画というのがございまして、4分の3が過ぎております。進捗状況はどうかのと。第三次計画はどのような形で進められておられるかということです。

市長 スポーツ振興計画の進捗状況については、私の頭の中に入っていないので、後日、担当の方からご連絡させていただきます。

意見 わかりました。

（スポーツ振興課からの回答）

全体目標として、成人の月1回以上のスポーツ実施率60%以上という指標があります。平成25年から3年間の数値は、67.8%、63.5%、47.2%となっております。

現在の生涯スポーツ振興計画は、基本施策として、「スポーツ活動の推進」「スポーツ環境基盤整備」の2つを設けており、それぞれに施策を展開しております。例を挙げますと、市民スポーツの推進として、総合型地域スポーツクラブの設置・

育成があります。計画策定時は、総合型地域スポーツクラブは2つでしたが、現在は4つのクラブが活動を行っています（芳野スポーツクラブ・川越公園スポーツクラブ・川越山田スポーツクラブ・ふくはらスポーツクラブ）。

第三次川越市生涯スポーツ振興計画については、平成33年度から実施されるため、今後策定に向けて動き出すこととなりますが、各種スポーツ団体や関係部署と検討を重ね、スポーツ推進審議会の意見を伺い、スポーツ支援の更なる充実・拡大が図れるよう見直してまいります。その際には、地域の意見等を伺う機会を設けることも検討していきたいと考えております。

《地域会議の活動の広報掲載》

意見 地域会議がどんな活動をしていくかわからないということがありまして、中には地域会議と地区会議、サポート委員会もあるんですが、その区別ができないという人もいます。やっぱりそういった点はちゃんと直していかなければいけないのかなと思いますが、各地域会議で広報紙的なものを発行していくのはかなり負担感が出てまいりますので、できれば市の広報に地域会議の取り組みを載せていただきながら、現在、本庁管内には地域会議がない自治会が9つぐらいあると思うんですが、そういうところに対しても多分いい刺激になって、地域会議がないとこれは大変だぞというふうに思わせるような、そういう広報の仕方をぜひお願いをしたいなと思います。

市長 市の広報を使って地域会議の活動状況等の広報をするという点については、前向きに取り組ませていただきます。

《地域会議と子育て支援》

意見 南古谷地域会議ができたおかげで南古谷で子育て支援が積極的に行われるようになって、ゼロ歳からのコンサートや子育てカフェというのをやっているんですね。お母さんたちにも大変好評で毎月1回集まっているんですけども、やはり地域会議というのは、その地域の課題を解決するという発想であるため、何となく所属している場所に違和感をとても持ちながら子育て支援を行っているんですね。

ですので、やはりサポート的な意味では子育て支援課とか、それから地域支援課の子育て部門だとかわからないんですけども、ゼロ歳から18歳までの自治体の

つながりの中で見守っていけるようにできたらいいのかなというふうに思っているんですね。それこそ子どもたちも小さい子たちはまだ地域の目もあるんですけれども、ちょっと年齢が上がってくるとどこの団体にも所属ができなくなってくるような不安なお子さんたちもいるんですね。どこに相談していけばいいのだろうかといったところも含めて、子育ての支援というか、一緒に意見を、助言とか配慮とかをいただけるような課とつながれたらいいのかなと思っています。

市長 今、子育て支援等を熱心にやっていただいているということなんですが、例えばこの南古谷の地域会議の一つの仕事というか、課題というか業務として子育て支援の分野で川越の中に一番を目指していろいろやっていこうというのでも構わないと思います。

さらに言えば、これは行政にとって大変都合のいいことを言っていると言われるかもしれませんが、先ほど出た多目的広場について、私どもが小さいころは冬の間は田んぼで草野球をやったり、走り回ったり、いろんなことをやっていました。この地域は、田んぼがいっぱいありますよね。稲を刈り取った後、耕さないで冬の間だけ借りるとか。耕すとやわらかくなってしまい走り回れないので。そのまま使うんだったら別に農地転用とかそんなことは関係ないですからね。このようなことを地域で田んぼの持ち主に交渉してそういうことに使わせてもらうとか、そういうことを地域会議の仕事にさせていただいてもいいというふうに私は思っています。

意見 そうなんですね。ありがとうございます。でも、田んぼは、個人の持ち物なのでなかなかそういうところで利用というのは。例えば、よく見かけるのは田んぼの中にレンゲを植えたりとかたくさんやっていて、それを市民の方に開放しているというのちょっと見たことがあるので、そういった取り組みもあるといいと思うんですけれども、何せ私たちの子育て支援の人数が少ないものですから、やっぱりもう少し、まだ年数もあまり経っていないというところもあって、どちらの方向にどうやってやっていけばいいのかというのは、ちょっと行政の方とも相談ができるところがあるといいかなというふうには思っています。

市長 相談窓口としては、まずは市民部ですよ。それぞれの分野に応じて担当をご紹介します。

意見 わかりました。市民部にまずは相談に行くというところから始まるんですね。

市民部長 地域会議の担当課で地域づくり推進課というところがございます。直接

地域づくり推進課のほうにご連絡いただいても結構ですし、市民センターを通していただいても結構です。ご要望につきましてはご連絡いただければ対応させていただきたいと思っています。

《南古谷駅前公衆トイレの設置》

意見 JR南古谷駅の駅長をしております。日ごろより当駅、あるいは弊社に対しましてご理解を賜りまして本当にありがとうございます。

南古谷の駅前ですが、今まで公衆のお手洗いがございません。もちろん手前のほうも、例えば、お客様からお話があれば中をお通しします。切符がないと入れませんとか入場券買ってくださいますとかそんなやぼったいことは申しておりません。ただ、通行されるお客様などが私どもの改札の社員に、トイレ借りてもよろしいですかというようにお聞きになるわけですから、そういった心理的な負担感などを考えますと、やはり駅前に公衆のお手洗いがあったほうが、住民の皆様にとってはよろしいかなというのは考えております。

もし、そのような計画等がございましたら、お聞かせいただければと存じます。

都市計画部長 ここ一、二年ということではありませんが、南古谷駅前北口もしくは南口の広場の改修等を進めていく中で、当然に公衆トイレの話というのも出てくるかと思えます。そちらのほうは地域の皆様と話し合いながら計画を進めていきたいと思っております。また、こちらについてはJRさんとの交渉事でございますので、南古谷の駅長さんからも大宮支社のほうにぜひ地域の声を、こういうような声があるんだよということを、市の側のほうをバックアップしていただけるような形で応援していただければと思っております。

市長 今まで駅の改修や周辺整備をやっていく中で必ず駅前広場には公衆トイレをつくっておりますので、そういう方向で物事は進めます。

意見 恐れ入ります。弊社の大宮支社の企画室とも連携しながら、ぜひ情報を通させていただきたいと存じます。なお、タクシー会社のドライバーさんもご利用されていますので、これはそういったところを排除するということでは毛頭ございませんので勘違いなさないようにお願いします。

《牛子小学校に関する要望》

意見 牛子小のPTA会長をしている者です。話が重なってしまうかもしれませんが、牛子小の父兄から聞くと、やはり遊ぶ場所ですね。遊んでいて空き地であってうるさいと。それを回覧で、うるさいからやめてくれと特命がありました。そういうのが結構私のところにあって、昔だったら空き地で遊んだりとかそういう野場で遊んでいても子どもの声が多かったんでしょうけれども、今はそういうふうに遊ぶとなかなか理解が得られなかったりとか。

あとは、牛子小でも、この前マラソン大会を開始して、それで、どうしても公道を走る関係で皆さんにお願いをして、僕らもボランティアとしてついたんですが、中には子どもたちが走っている中を、ここちょっと今走っていますのでとまっただけですかと言ったら、嫌だと言うので、そのまま突っ切った方もいらっしゃるので、やはり昔と違うなというのを認識しています。

また、この前、牛子小は、台風21号があったときに避難所を開設しましたが、実際は起きたときに水の量が異常に多く、建物の中でどうしても詰まった関係で水が学校内であって本当に苦労したという話も聞きました。ただ私も、私ひとりで手伝いに行くならいいんですが、子どものこと等もありますから、やはりすぐにそっちに駆けつけるというわけにはいきませんので、牛子小が本当に安全なのかというのを……。今はLINEとかそういうので話を聞くと川の水位がだんだん上がってきて、そっちにやっぱり行けないなという話がありますので、これから想定外という台風や、それがなくてもこういうふうな災害が多いので、ぜひ安全である地域にしていきたいと思ひまして。

市長 ご要望ということでよろしいでしょうか。

意見 はい。

《駅の乗降所とシャトルバス停留所》

意見 川越駅東口が工事して幅を広げているということなんですけれども、実は車椅子の場合、南古谷地区は今のところはどうしても車道へ出て駅へ来るというような感じで、やっぱり危ないので、そここのところを整備してもらいたい。バリアフリーはまだできていないかなという感じがいますので、これを何とかしてもらいたいと思います。

それとあと、もう一点は、シャトルバスですね。私も障害者ですからシャトルバスに乗っていますけれども、南古谷地区は大体駅の近くにありますが、これで新河岸のほうに行きますね、そうするとあの線路ですと行くと駅へちょっと遠いんですね。みんな障害者と高齢者ですから、駅に近くないと、それを一番求めているわけですが、その辺を駅の構内とかその近くに入れられないものなのか。川越駅も東口のほうは駅の下のほうへ入っていきませんよね。途中の脇道ですよ、とまるのが。そうするとどうしても歩かなきゃならない。障害者は歩くのが一番困難ですから、駅の近く。要するにすぐに乗れるようなところ。これを求めていますので、そこら辺を何とかできればと思うので、よろしくお願いします。

都市計画部長 まず乗降所のお話からさせていただきますと、これから広場整備を進める中で、思いやり乗降所みたいなものを、駅のアクセスを考えながら、一番いいところにつくっていくことになろうかなと考えているところでございます。こちらについても、地域の皆様と一緒に話し合いながら決めていくようになろうかと思っております。

次に、シャトルの関係でございますけれども、新河岸駅のほうは、今回、駅前広場ができましたのでシャトルのダイヤ改正が4月1日から始まりますが、そのときには新河岸駅の広場のほうに全てのバスが入っていくような形になろうかと思っております。

意見 やっぱり車いすの人はちょっと不便ですから、その辺を何とかしてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

《運転免許返納》

意見 私、川越警察署の協議会の会長を仰せつかって3年目で、今日も午後、県庁第2庁舎で代表者会議というものに出てまいりました。

川越の場合は、1市に1署ということですからごくやりやすいということで、協議会の中でも防災無線を活用した振り込め詐欺の予兆電話が入ったときには防災無線ですぐできるようにということで、去年は42回あったそうです。これは行政と警察がうまく連携をしていっているということで、警察署署長以下ですが、本当に喜んでいます。

そういう中で、免許の返納の問題がたびたび話題になってきます。免許を返納し

たら何か得になるのかどうか。得にならなくても、返納したけれども自分は不自由しなくて今までと同じように生活をできる。シャトルバスの問題ですとかデマンド交通の問題だとかいろいろ出てくるというふうに思うんですが、その辺のところをぜひ行政のほうも一緒になって考えていただけるとありがたいなというふうに思います。

川越市内でも高齢者が逆走して入ってきたとか、そういう事例も結構見えるんですね。ですから免許の返納、気持ちよく返納できるようなそういう体制をぜひこれからはとっていただきたいというふうに思います。

これは、協議会の会長としてではなくて地域住民としてのお願いでもありますので、その辺のところはよろしく願いをしたいなと思います。

市長 免許を返納した人に対する交通手段については、これから皆様方と協議をしながら、いろいろ工夫をしていきたいと思っています。

まずは、平成30年度中にデマンド交通を、最初は1地区ですけれども、実施して、それをだんだん広げていきたいというのがひとつの対処策と考えていますが、それ以外にもいろいろ皆様方のお知恵をかりながら、返納者があまり不便を来さないようなことを考えていきたいと思っています。

意見 高齢化社会を迎えてどんどん高齢者がふえるばかりで、交通事故死で高齢者が5割以上死んだというんですね。そういった中で地域の住民として生活をしていかなきゃいけません。そういったことも含めながら、高齢者の対策という言い方はちょっと変ですが、対応をできるような川越市であってほしいなと思いますので、よろしく願いいたします。

《災害時の車での避難》

意見 震災のことについてなんですけれども、さいたま市のほうでは水害とか何か起きた場合、車等で避難をするというようなお話があるんですけれども、そういう場合に、向こうだと、イオンとかそういうところと提携して、その駐車場を使えるとかいったような話があります。川越市としてはそれに対してどのような考えがおりなのかお聞きします。

危機管理監 車での避難の件でございますけれども、ご案内のとおり、さいたま市でイオングループとそういう場所を提供してというお話がありました。

川越市としては、先日、議員のほうからも一般質問をされたところでございますけれども、水害等の場合には車での避難というのは、原則しないというのが通常でございます。

というのは、やはり道路が浸水していますと実際にどういう状況になっているかわからないですし、それによって交通渋滞を招いて緊急車両が通れなくなっているということもいろいろ想定されるもので、原則は徒歩ということになります。ですが、歩いて避難できないということがありますので、その辺については、今後の話ですけれども、市の中心部の公共施設のほうに車での避難ができるような方法を考えていきたいと考えております。いずれご案内をできると思っておりますが、そういう方向で考えております。

市長 本日は、皆様方から大変参考になる、あるいは、切実なご要望を頂戴しました。ご要望については即対応できる部分と、なかなか時間がかかる部分があるかと思っておりますが、その辺につきましても、ご理解をいただきたいというふうに思います。

いずれにしても、皆様方の貴重なご意見をできる限り反映させていきたいというふうに考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

本日は本当にありがとうございました。